



# いずみさの昔と今 第312回

「泉佐野市域の雨乞いの地域差」

今月12日(日)に閉幕を迎える歴史館いずみさの秋季特別展「いのりよ、とどけ」。最後となる今回は、当展にて展示中の雨乞いについて紹介します。

泉州地域は、古くから地中海性気候の影響により雨が少なく、山・川などの地理的要因から水の確保が難しい土地でした。そのため、泉州地域では数多くの溜池が築かれ、田畑の灌漑に利用されました。こうした気候・地形的影響は、人々の信仰に大きく影響を与えており、その痕跡は雨や水を司る神仏への信仰にみとれます。泉佐野市域の神社にも雨や水に関する神仏への信仰資料が数多く残っており、地域ごとの雨乞いの様相がわかります。

泉佐野の雨乞いを地区ごとに見ていくと、大木地区、上之郷地区、日根野地区、長滝地区、佐野地区とで異なることがわかります。例えば大木地区の場合、犬鳴山を道場とする葛城修験の影響が強いほか、密教・道教・陰陽道・修験道など様々な信仰における水を司る神仏を祀っています。これは、水源と修験道の霊場が結び付けられたために発生した神仏信仰です。また、上之郷地域は、山間部の麓に集落を有するといふ立地的条件から榎井川とは別の山から流れる水系(現稲倉池周辺)も利用していま

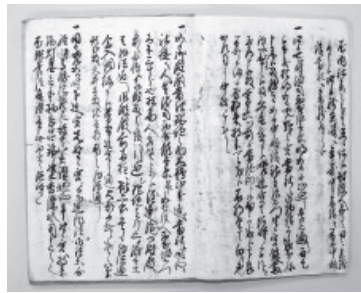
した。そのため、山と川(水)の信仰を有するようになり、「日本書紀」に登場し、山神と共に生まれたという山間部、雨をもたらす高麗(意賀美神社)を祀るようになったと考えられます。更に日根野地区では、現在日根神社に合祀されている野々宮(丹生神社)の丹生都比売命が水の信仰を集めました。丹生都比売命は空海が高野山へ勧請した説話を持つ神で、水に験ある神として祀られており、日根荘成立以前に高野山が開発した際に勧請されたようです。この丹生都比売命は、長滝地区でも祀られており(現天野神社か)、江戸時代には、蟻通神社の宮司家である木戸氏によって長滝全体の雨乞神として奉幣を受けています。

これら各地域の雨乞いの特色としていえることは、以下の3つに集約されます。1つ目は、大木地区は修験道系の信仰が根強い点、それが雨乞いの際に信仰する神仏へ転化されたこと、2つ目は上之郷地区の場合、地形的な制約が雨を司る神へ転化されたこと、3つ目は、日根荘開発時の神仏勧請による影響で、日根野から長滝へかけて雨乞いの神として登場するのが丹生都比売命や牛頭天王などほぼ同一の神であるということとです。上記の3点は、信仰と自然地形の結合、自然地形と日本神話の結合、開発による信仰発生

と地形の結合であり、いずれも自然地形を共通としながら、それぞれ別の要因が結びついて雨乞い信仰へと転化していることがわかります。これは中世特有の雨乞い信仰の発生過程であり、自然地形による制約を神仏に頼って解決しようとする中世の人特有の考え方です。前々回紹介した十二谷池の祭文に登場した神仏も中世の神仏習合特有のものであり、今回紹介した各地域の雨乞い信仰発生過程と共通するものがあります。

日本遺産として日根荘が認定された昨今、今一度中世の神仏や思想、信仰について振り返ってみるのも面白いのではないのでしょうか。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの ☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日 (いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館)  
開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)  
入館料 無料



▲「当山請雨・祭礼・諸事記録」

## 日本遺産・中世日根荘を巡る②9 ～旅引付編 (13)「七宝瀧寺」(前編)～

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介いたします。

問合せ先 文化財保護課



◀政基公旅引付  
※旅引付の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用(原本は宮内庁書陵部所蔵)



お滝まつり

七宝瀧寺は、令和元(2019)年に「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」。令和2(2020)年には「葛城修験—里人とともに守り伝える修験道はじまりの地—」の2つの日本遺産に認定されるほど、数多くの歴史文化資源を保有する本市を代表する歴史文化資源及び観光名所となっています。

また、犬鳴山溪谷の景観は、金剛生駒紀泉国定公園や「大阪みどりの百選」、重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」にも選定されており、和歌山市加太国民休暇村から和泉市榎尾山施福寺までつながる大阪府の泉州地域近畿自然歩道のコースにもなっています。犬鳴山は、齋明7(661)年、修験道開祖である役行者が28歳の時に開基した葛城修験の中心的行場であり、そのなかに真言宗犬鳴派の七宝瀧寺があります。本尊は俱利伽羅大龍不動明王で、役行者作と伝えられる秘仏です。大和の大峰山より6年早く開山されたので、元山上と呼ばれ、ここが修験はじまりの地ということが出来ます。本堂のさらに上にある行者の滝では、一般の男女が参加できる1日修行体験も行われており、貴重な修験体験ができる葛城修験唯一の場所となっています。